

米 新刊図書

ペュリフォイ著・伊丹康夫訳

建設工事の計画と機械と施工法

土木技術者が学窓を巣立って間もなく、一つの大きな壁に直面する。それは工事費の積算である。発注者側にある人は、目的とする構造物を建設するのに最も適正な工事費を算出することが必要な業務となり、一方受注者側にある人は、適切な計画を立て限られた期限内に優れた構造物を建設し、その上適正な利益をいかにして得るかということがその人の業務となる。最近わが国では、公共工事、民間工事ともに工事量は年々増加の一途をたどり、土木技術者は量的にも質的にも大いに不足をきたしている。われわれは新しい若い技術者に期待するところきわめて大であり、彼等の正しい指導の必要性は日夜痛感しているにもかかわらず、日常の業務の多忙さに追われ自分自身の勉強すらも満足になし得ない現況にあるのはきわめて残念なことである。

一方自覚ある若い技術者が、自ら書物をひもとき、自学自習するにも適切な指導書は少なかったようである。

訳者は電源開発株式会社に職中に御母衣ダム工事を担当され当時、本書を手元に置いて日夜本書をひもとき工事完成への大きな助けをなされたことである。

本書はきわめて豊富な実例に基づく図表を多く含み、また非常に字の大きさ、配置等が適切であって読み易く書かれている。建設業にあって将来大成せんと望まれる向学の士には必ず、また発注者側にある若い技術者にも一読をおすすめしたい。

内容は、

- (1) 技術者は発注者、受注者を問わず、いかに工事費を節約すべきかについての基本的な態度について
- (2) 工事計画と運用について実例に基づいての記述
- (3) 建設機械の選定は、どのようなことを考慮して行なうべきか
- (4) 施工に関する工学的基本問題
- (5) 建設機械の性能、使用法各論
- (6) 施工法各論
- (7) 安全管理の必要性とその管理技術

であり、これらがすべて工事費との関連において書かれていることに注目したい。

好学社刊、A 5 判・631 ページ、2300 円

土質工学会編

軟弱地盤の調査・設計・施工法

土質工学会編

軟弱地盤における工事実施例

瀬古新助著

軟弱地盤改良設計 II

最近の巨大なエネルギーで進められる建設事業は、同時に、これに従事する技術者にますます過酷な設計条件を加えることになった。その最も大きなものの一つが軟弱地盤である。「軟弱地盤」とは、技術者にとって全く取付き難い、いやな感じの名前である。しかし豊富な経験と正しい判断でこれに対すれば、決して難し御い相手ではない。わけの解らぬだれかが押しつけた無茶だと怒る前に、ぜひ本書を一読することを御すすめる。

土質工学会編ライブラリーは、軟弱地盤の最高権威者を惜気もなく動員した最近の集大成である。著者等の豊富な経験と理解から生れた文章は、平易な中にも最高の技術と方法論を納得づくで教えてくれる。

「軟弱地盤の調査・設計・施工法」は、第1編で軟弱地盤の成因、その調査法および性質を、第2編で安定と沈下の計算法、盛土、杭基礎および建築構造物の設計方法を述べている。

「軟弱地盤における工事施工例」は、著名な土木事業、すなわち名神高速道路、東海道新幹線、八郎潟干拓、名古屋港高潮防波堤、各種建築物および知多アースダムを実際に設計施工した著者等が、そのすばらしい方法論と経験を惜気もなく披露している。読者は、恐らくこの有名な土木工事を自分で設計施工している気持ちになり、一つの物語を読むように一気に読み上げ、そして自分にすばらしい判断力が身に付いていることに気付くだろう。

「軟弱地盤改良設計II」は、ウエルポイント工を中心に、その適用範囲、設計施工法をくわしく総合した指導書である。このように工法を具体的に説明することは有益で、必要であり、他一工法にも範囲を広げるべきであるが、ただサブタイトル等にて内容を説明するほうが親切というものである。ちなみに、渡辺隆著「軟弱地盤改良設計I」は、設計計算の実力養生を目的とした指導書で、例題、練習問題も多く、教科書、入門書として最適であることを付記しておく。

<軟弱地盤の調査・設計・施工法>

土質工学会刊、A 5 判・310 ページ、1200 円

<軟弱地盤における工事実施例>

土質工学会刊、A 5 判・225 ページ、900 円

<軟弱地盤改良設計2>

オーム社刊、A 5 判・205 ページ、880 円

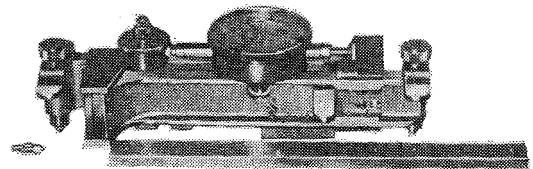
改良型ホイットモア・ストレインゲージ Rs-10

本器は歪量がそのままダイヤル・ゲージで読取れる機構の不拡大式ストレイン・ゲージです。

一式は写真に示す如く、本体を初め各種付属品はすべて格納箱に収納されております。

仕 様

- ① 本体および標準ゲージ
インバー鋼製 標点距離 250 mm
- ② ダイヤルゲージ
精度 1 / 1000 mm, 働長 5 mm
- ③ 付 属 品
ポンチ 2 種, チップ, ハンマー,
セシター・ドリル, ハンド・ドリル
- ④ 格 納 箱 付



Rs-10

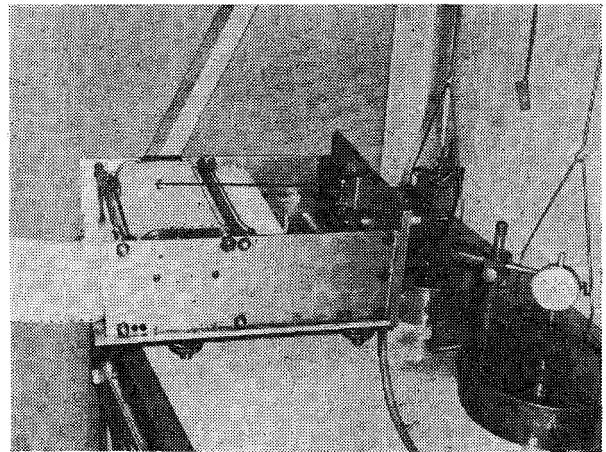
土の圧密沈下量自記々録装置 SC-22

(Patent 申請中)

本装置は土の圧密試験の沈下量を自記するのに使用するもので、既設の装置に連結して電動式自記々録ドラムを規定速度で回転させ、変位があらわれると変位探知部が働き、測定量を機械的拡大機構により拡大し、曲線として記録用紙上に描かせるものです。

仕 様

- ① 記録装置
記録方式 自記ペン式
有効記録巾 200 mm
使用電力 100V, A C
器体寸法 高さ21、巾53、奥行30 cm
- ② 変位探知部
測定範囲 4 mm、測定高さ調節ネジ
(約 5 mm) 装備
- ③ 付 属 品
電源コード、記録ペンおよびインキ、
記録用紙



SC-22

営業品目 丸東万能・圧縮材料試験機 (リーレ式) ・土質・アスファルト試験機・
セメント・コンクリート試験機・マルチーリング (力計) 各種材料試験機



株式会社 丸東製作所

本 社 東京都江東区深川白河町 2-7 電話 東京 (642) 5121 (代表)
京 都 出 張 所 京都市中京区壬生西土居の内町 3 の 1 電話 京都 (84) 7992
北 海 道 出 張 所 札幌市南十条西十三丁目 9 7 0 電話 札幌 (56) 1409